

NICUにおける家族の育児参加の一環として

—保育器カバーの作成を両親に働きかけて—

A棟4北西

○懸尾知子 近藤裕美
陰山裕紀子 川村友希子
坂本仁美 松澤千穂

I. はじめに

新生児集中治療部（以後 NICU とする）には、年間 120 人以上の入院がある。そのほとんどの児は、出生と同時に母親と接触なく NICU に運ばれ、その後、両親は様々な医療機器に囲まれた特殊な環境におかれている我が子と対面する。NICU は治療の場であるが、子供にとっては人生で最初の生活の場となり、両親にとっても育児を開始する場となる。そのため NICU の環境は、救命を最優先課題として医療者側の視点で整備されてきた。最近では、養育環境を胎内環境に近づけ児のストレスをできるだけ減らし、また家族が養育に参加できるディベロップメンタルケアの必要性が見直されている。

そこで当 NICU でも、平成 12 年から状態の安定した児にカンガルーケアを実施している。また、24 時間人工の照明下にある環境から保護するために保育器カバーを使用している（**図 1 参照**）。その保育器カバーの作成に両親が参加することが育児参加の一つとなるのではと考え作成を呼びかけた。そして、今回保育器カバー作成が両親の愛着形成を促すものとなり得るのかを検討した。

II. 研究方法

- 1) アンケート実施期間 平成 14 年 7 月 1 日から平成 14 年 8 月 31 日
- 2) 対象 クベース収容となっている児の両親 16 名
- 3) 方法 作成方法を示したポスターを病棟入り口インターホン横に掲示（**図 2 参照**）。はじめにアンケートの母の退院日前後に保育器カバーについての印象をきくためのアンケート用紙 No. 1（**図 3 参照**）と保育器カバー作成の方法を示したパンフレット（**図 4 参照**）を渡した。次に保育器カバー持参日から 1 週間以降に、保育器カバーを持参した両親に作成した後の気持ちを知るためにアンケート用紙 No. 2（**図 5 参照**）を配布した。
- 4) 倫理的配慮 入院時に、保育器カバーの使用目的について説明し、アンケート調査への協力の同意書（**図 6 参照**）を渡し、後日持参してもらった。回収方法は、後日封筒に入れて無記名でスタッフに手渡しとした。

III. 結 果

No.1のアンケートの回収率は16人中14人だった。保育器カバーをはじめてみたときの感想は、なぜカバーをかけているのかと思った、かわいい、機械が多い部屋の中に手作りの物があるのは良い、落ち着いてよく眠れそうだ、赤ちゃんにとって少しでも良い状態にしてあげる事は大切だなどの意見があった(図7参照)。

次に「作ってみませんか」と説明を受けたときの気持ちを聞いたところ、「産後でありすぐにはできないが作りたい」、「母親らしいことを何もしてあげてないので嬉しかった」、「自分が無力に感じていたが子供のために何かできてうれしい」という肯定的な意見と、「布を買いに行ったりミシンで縫ったりするのは手間がかかる」、「作れるのかと不安になった」、「母親らしいことをしてあげる一つの選択肢かと思うが早く保育器から出て欲しいので作るのはためられる」という意見があった。

16人に保育器カバー作成を呼びかけた結果9人が保育器カバーを持参した。持参した両親の児は、32週未満の児が5人で、また、全員が呼吸管理を要する状態だった。反対に持参しなかった両親の児は34週以降から40週で比較的軽症であった。

No.2のアンケート回収率は9人中8人だった。その結果、パンフレットの内容を理解できたかという質問に対して全員が理解できたと回答した。保育器カバーを使ってみての感想は、作ってよかった6人、かわいい5人、うれしい4人、赤ちゃんの場所がわかりやすい4人であった。赤ちゃんがみえづらい・作らなければよかったはいなかった。最後に保育器カバー作りとカバーについての感想を自由記載してもらったところ、初めて子供へのプレゼントを作れて母親としての実感がわいた、離れて暮らしているので保育器カバーでつながっていると感じられた、子供のものを作れるだけで嬉しかった、子供と離れて暮らしていても精神的に安定した、他に参加できる機会があれば参加したい、自分で作ったカバーで子供がゆっくり眠れると思うと嬉しい、訪れた祖父母も児の場所がすぐにわかったなどの意見があった(図8参照)。

IV. 考 察

今回の調査結果より、保育器カバーを初めて見たときはカバーの意味を理解できなかったという意見もあったが、赤ちゃんに対してよいこととしてとらえている意見が多くあり、家族が赤ちゃんの生活するための環境はどうあるべきかを理解しはじめる第一歩になったのではないかと思う。普通、母親は出産時期に向けての心の準備をし、喜びの出産を迎え愛着形成の段階に入っていく。しかしNICUという特殊な環境の中で想像と違うわが子と対面した母親は、悲しみや戸惑い、また自責の念と児の成長への不安など心理的に不安定な状態になると言われている上に児との接触に制限がある。その中で出来ることはないかと考え、保育器カバー作成をすべての両親に呼びかけたが、軽症な児の両親は早期よりカンガルーケアや授乳などができたため参加が少なかったと思われる。作成に参加した両親が離れて過ごす子供とのつながりを感じた、精神的に安定したと言っていることから、カバー作成は赤ちゃんに触れることなく子

供との関わりに喜びを発見できるものと考えられ、児との接触に制限のある週数の浅い児や重症児を持つ両親への育児参加として勧めて行くによいと考える。また、今回カバー作成のあと、他に出来ることがあればしてあげたいという言葉が聞かれたり、保育器カバー以外の物を作成して持参した両親がでてきたことは、保育器カバーが一つのきっかけとなり愛着形成が進んだ結果と考えられる。これからも NICU という特殊な環境のなかで親子がゆっくと触れ合うことができるための育児参加を考えていきたいと思う。

参考文献

- 1) 渡辺とよ子：ディベロップメンタルケアと親の参加、Neonatal Care、春季増刊号、27～31、2002.
- 2) 福田雅文：参加型の NICU にしていくには、Neonatal Care、14 (11)、988～995、2001.
- 3) 横尾京子：ディベロップメンタルケアが看護に求める理念、Neonatal Care、14 (11)、964～968、2001.
- 4) 飯田ゆみ子：新生児と両親にとっての情緒的環境、衆参期医学、30 (7)、885～888、2000.
- 5) Katherine M : Developmental Care セミナーテキスト I～III、アトムメディシステムズ

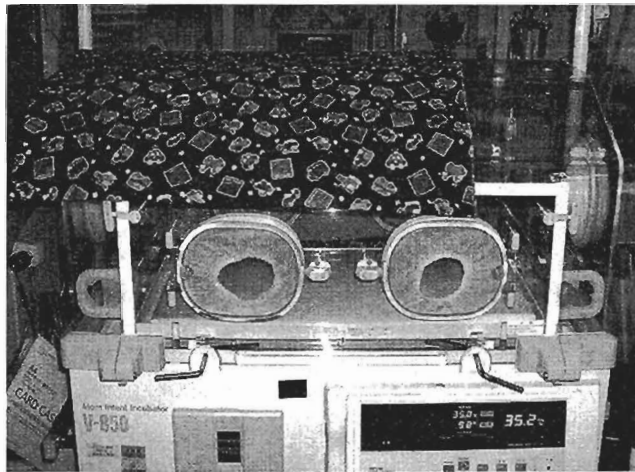


図1 保育器カバー使用例

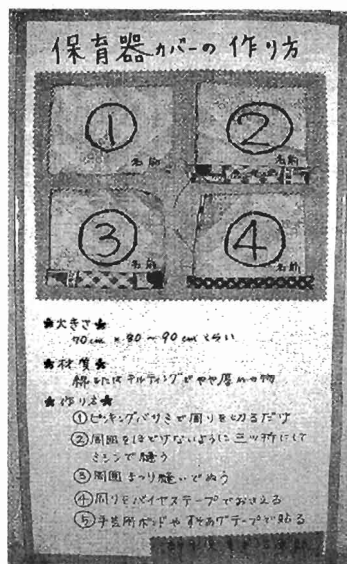
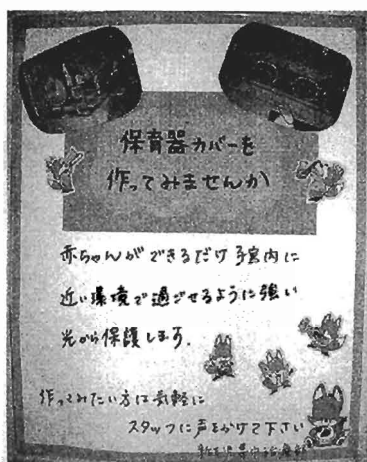


図2 作成呼びかけポスター

NICUでは赤ちゃんにとって良い環境作りに努めていきたいと考えています。NICU内は一日中人工の照明下にあり、赤ちゃんにとって強い刺激になると言われていますので、刺激から保護するために保育器カバーを使用したいと考えています。環境作りのための保育器カバーについて、ご意見をお聞かせください。

- 1、保育器カバーをはじめて見たときどのように思われましたか
- 2、作ってみませんかと説明を受けたときどのように思われましたか

ご協力ありがとうございました

図3 アンケート用紙 (NO.1)

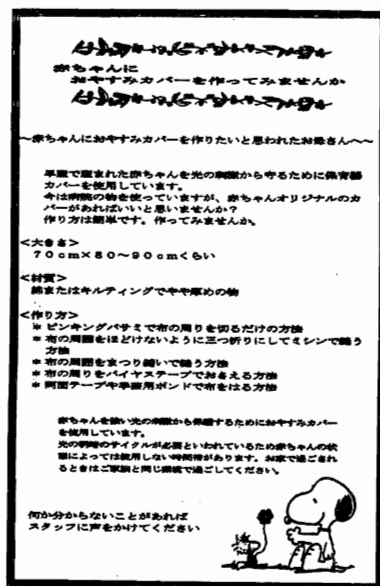


図4 パンフレット

保育器カバーの作成についてのご意見・ご感想をお聞かせください

1. パンフレットの内容は理解できましたか a. はい b. いいえ
2. 1でいえと答えた方に質問します。どういった点がわかりにくかったですか。(複数可)
a. カバーの使用目的 b. カバーの作り方 c. カバーの材料 d. カバーの使い方
e. その他()
3. カバーの材料は誰が選びましたか()
4. カバーは誰が作りましたか()
5. カバーを使ってみてどうですか(複数可)
a. 赤ちゃんが見えづらい b. うれしい c. かわいくない d. かわいい
e. 赤ちゃんの場所がわかりづらい f. 赤ちゃんの場所がわかりやすい
g. 作って良かった h. 作らない方が良かった
i. 何も思わない j. その他()
6. カバー作りやカバーについての感想・ご意見をお聞かせください

ご協力ありがとうございました。アンケート用紙は封筒に入れてスタッフにおわたしてください。
奈良医大新生児集中治療部

図5 アンケート用紙(No.2)

ご両親様へ

NICUに入院するほとんどの赤ちゃんは、出生後お母さんと接触なくNICUへ運ばれ、長期の入院を余儀なくされ、ご両親は様々な医療機器に囲まれた特殊な環境におかれている我が子と対面することになります。NICUは治療の場ではありますが、子供にとっては人生で最初の生活の場であり、両親にとっては育児を開始する場所であると考えます。しかし、現時点では24時間人工の照明下で、様々な騒音の中にあり治療優先の状態となっていたと思われます。そこで、今回赤ちゃんが生活するための環境、親子が触れ合うことができる環境作りの一環として保育器カバーの導入を行っています。

本来薄暗い子宮内にいる時期の赤ちゃんにとって日周期のない不自然に明るい環境にさらされることは、光そのものがストレスになり、睡眠のリズムが乱されている可能性があります。そういった影響を取り除く方法の一つとして保育器カバーを使用されています。現在、保育器カバーは病院で作ったものを使用していますが、簡単なもので参加していただける方は、市販の物や作って持ってきていただいても結構です。このことについてご家族の方のご意見をお聞きし今後よりよく改善したいと思っておりますのでアンケートにご協力お願いします。ご両親で相談の上、後日下記の用紙をスタッフにわたしてください。

奈良県立医科大学附属病院 新生児集中治療部

アンケート調査にご協力いただけますか
はい いいえ

- ・ 機械が多い部屋の中に手作りの物があるのはいい
- ・ 病院でも昼夜の区別が赤ちゃんにとって大切だ
- ・ 赤ちゃんが落ち着いてよく眠れそうだ
- ・ 何の為に使うのかなと思った
- ・ 説明の用紙をみてから保育器カバーをみたのですぐつくろうと思った
- ・ なぜカバーをにかけているのか不思議に思ったが説明をうけて納得した
- ・ 赤ちゃんへの配慮がありたく、嬉しく思った
- ・ かわいいカバーだ
- ・ 早く生まれた赤ちゃんには、子宮の中がベストな環境なので、少しでも近い状態にしてあげる事は大切だ
- ・ なぜ、暗くしているのか思ったが理由を聞いていいことだと思った
- ・ カバーをはずすと、まぶしくて目を閉じた

サイン

図6 アンケート実施の同意書

図7 カバーを初めて見た印象

- ・ かわいくしてもらって感動した
- ・ 初めての子供へのプレゼントでがんばって作ることができて母親としての実感がわいた
- ・ 離れて暮らしているのでクベースカバーでつながっていると感じた
- ・ 今は子供にしてあげられることが少ないので子供のものを作れるだけで嬉しかった
- ・ 生地は後にタオルケットに出来るかとタオル地にした
- ・ 子供と離れて暮らしていても精神的にも安定した
- ・ 訪れた祖父母も孫の場所がすぐにわかり喜んでた
- ・ 今回は祖母が作ったが次回機会があれば自分が作りたい
- ・ 自分で作ったものを毎日使ってもらえて嬉しかった

図8 カバー作成に参加しての感想